

節目、そして、創立 41 周年

学校長 遠藤 淳子

柔らかな春の日差しと、薄桃色の桜吹雪と、そして早くも小机イエローの校舎に映える新緑の若葉が迎える佳き日に、新年度がスタートしました。お子様のご入学、ご進級、おめでとうございます。教職員一同、心より、お祝い申し上げます。

桜は、温かくなったら咲く。春になったら咲く。けれど、科学的には、冬の厳しい寒さがあってこそ暖かくなる気温変化を感じることができ、タイミングを選んで桜は目覚め（休眠打破）、開花の準備を始めると言われています。どんなに厳しく思えることでも、様々なことには意味があるということをお教わっているかのようです。

今年度、青葉区の荏田西小学校より異動してまいりました学校長 遠藤でございます。アフターコロナを見据えて、横浜市教育委員会から示されるガイドラインを遵守しながらも、子どもたちの安全安心を第一に、何ができるのかを常に教職員と共に考え、新しい令和の学校教育の創造にトライしていきたいと思います。

どうぞ、保護者の皆様、地域の皆様、学校教育へのご理解とご協力とともに、子ども達への温かなお導きをいただきたく、よろしくお願ひ申し上げます。

学校長引き継ぎの日、前任の鈴木校長先生より、校庭前にある「榎（柏）の木」を紹介していただきました。秋枯れの葉をつけたまま、新芽を芽吹かせている生命力と、代々引き継ぐという見守りの木の春を初めて目にし、深く感じ入りました。まるで、私たち異動者を待っていてくれたかのように感じ、さらに、新年度を迎える子ども達を途切れることなく見守ってくれているかのように感じ、温かな気持ちになりました。

榎（柏）の葉は、小机城主（城代） 笠原越前守信為（かさらは えちぜんのかみ のぶため）の紋所であり、校章にある3枚の葉は、知育・徳育・体育の望ましい発達と円満な人間形成への願いが込められていることを知りました。また、榎（柏）の木は、古来神事に使われたり、慶祝の木として活用されたりしてきた木でもあり、「葉守りの神」が宿る縁起の良い木とされています。秋に枯れた葉は新芽ができるまで落葉しないことから、「代が途切れない」木とも言われ、葉には芳香があります。ほのかに葉の香りが付いたかしわ餅は、江戸時代から食されている勝ち餅とも呼ばれているそうです。調べを進めると、黄色い榎（柏）の花言葉は、愛想のよさ（いつでも微笑んで朗らかに行動する姿）、白い榎（柏）の花言葉は、勇敢（勇ましい気持ちで日々を進んでいく）とあり、花開くことも待ち遠しく思えるほどです。今年度、創立 41 周年を迎える小机小の新しい歴史の歩みを、この榎（柏）の木とともに進めていけることをとても嬉しく思います。

この4月には、4年ぶりに小机城址まつりも開催が予定され、地域の皆様との様々な連携も復活の兆しが見えています。この地を故郷として生きる子ども達の伸びやかな成長を願ってやみません。